

令和6年度 大田市立高山小校 研究計画

令和6年5月
研究主任 渡邊

1 研究のこれまでと目的

R3年度の島根県教育研究大会提案発表、R4年度の大田市学校教育研究大会、島根県複式教育研究会での公開授業に向け、「高山スタイルの授業づくり」に取り組んできた。また、R5はさらに「異学年でともに学ぶよさ」を求め授業実践を行うとともに、それを随所で生かすことができるように、算数科の東京書籍複式教育課程をもとに、「高山カリキュラム」作成した。私たち教師の授業づくりに向かう考え方や子どもたちの学びに向かう姿に、R5研究の成果にあるような変容が見られてきた。

しかし、本校は小規模校という特性から、授業の中で多様な考えが出にくい場面も多々見られる。子どもたちの未来は予測困難な社会と言われている。そういった社会で自分らしく生きるためには、学習指導要領にある資質・能力を身に付けることができる授業を展開していかなければならない。それらをどの授業においても実施することが肝要である。

大田市の学力育成プロジェクトも3年目（最終年）となった。昨年度の通覧指導や夏季校内研修会において、能力ベースで授業づくりをしても、児童が自らつかみに行くことができる授業にはまだ遠いことがわかった。児童が問い続け、よりよいものを求めて改善し続ける姿を目指し、自らつかみとっていくことができる授業を創造し、後述のめざす児童を育てたいと考え本研究を進めていく。

2 研究主題

(1) 研究主題の変遷

H30	高山っ子の伝え合う力を高める ～国語科「話すこと・聞くこと」の実践から～
R1	「伝え合いから自分の考えを深められる子どもの育成」 ～算数科における『思考の視える化』を意識した授業実践から～
R2	「伝え合いから自分の考えを深められる子どもの育成」 ～一人一人の『思考の視える化』を意識した実践から～
R3	「伝え合い、自分の考えを深めることができる子どもの育成」 ～『思考の視える化』を意識した実践から～
R4	「伝え合い、自分の考えを深めることができる子どもの育成」 ～高山スタイルの授業づくりによる実践から～
R5	知的に自立する子どもの育成 ～高山スタイルの授業づくりから複式カリキュラム編成へ～

(2) 今年度の研究主題

【案】知的に自立する子どもの育成

～高山スタイルで学ぶ感動を味わい、次の学びへ向かっていく授業づくり～

【研究主題の捉え】

(知的に自立する)

自分で考え表現し伝え、よりよいものに高めるという態度

(高山スタイル)

授業づくりシートから始める能力ベースの授業づくり

発達段階や学級の実態に合ったわたり・ガイド授業

異学年がともに学ぶ、能力でつながる授業

学びと学びがつながる瞬間がある授業

ICT活用から教育DXへの意識

☆学ぶ感動

- ・〇〇と〇〇はつながっているんだ！
- ・上学年への見通しの省察、下学年の振り返りの省察 など

3 基盤

(1) 学校教育目標から

本校の学校教育目標は「豊かな心もち、自ら学び、心身ともにたくましく生きる高山っ子の育成」である。「たかやま大好き高山っ子（ふるさと教育の充実）」「かしこくすすんで学ぶ高山っ子（知）」「やさしく思いやりのある高山っ子（徳）」「まい日元気でたくましい高山っ子（体）」の育成をめざし、「へき地・複式教育の特性を活かす教育活動」を教育方針の基盤に据えて、全ての職員で全ての児童の指導にかかわり、指導していこうとしている。学習指導要領にある、資質・能力の確実な育成をめざすとともに、温かい人間関係づくりを進め、確かな学力を育成していく必要がある。

(2) 児童の実態から

☆全校児童33名 1、2年の単式学級と、3・4、5・6年複式学級、特別支援学級こだまの5学級の小規模校。1・2年生学級は、R3年度は複式学級（現4・5年メンバー）。

○良さ

- ・互いをよく知っている間柄で、温かい気持ちで他者に接することができ、学校全体として温かな雰囲気がある。
- ・学習や活動に意欲的に取り組む児童が多い。
- ・複式学級の算数は、わたりの授業、ガイド学習を行ってきた。
- ・異学年がともに学ぶ授業に慣れつつある。

△課題

- ・固定化された人間関係の中で育っており、新たな人間関係を構築する際に自分の考えや思いを伝えたり、相手の考えや思いを知ろうとしたりすることが難しい子供が多い。
- ・特別支援教育の観点から、個のニーズに対応した支援を必要とする児童も多い。生活に必要な基礎的な能力にも課題を抱える児童が多い。
- ・すべき課題については積極的に取り組むことができるが、主体的に取り組もうとする児童は少ない。
- ・建設的な意見に乏しい部分があり学習においてよりよいものに高めるという意識はまだ低い。

(3) これまでの研究から

研究主題	取組	成果と課題
H30 国語 高山っ子の伝え合う力を高める ～国語科「話すこと・聞くこと」の実践から～	・子どもたちが伝え合うための場を設定する。	○子どもたちが授業や各種活動で多様な場を経験することで、話すためのスキルが向上した。 △伝え合う力が高まったという実感をどうやって得るか。
R1 算数 伝え合いから自分の考えを深める子どもの育成 ～算数科における『思考の視える化』を意識した授業実践から～	・授業マニュアルの提示。 ・説明の仕方、聞き方、ふりかえりの仕方などのモデル提示。 ・「自分の考えを説明するための手立て」一覧作成	○少しずつ自分の考えを伝えたり、友達と考えを共有したりして話す力の向上が見られた。 ○ホワイトボードにわかりやすく書けるようになってきた。
R2 算数 伝え合いから自分の考えを深められる子どもの育成 ～一人一人の『思考の視える化』を意識した実践から～	・低学年は具体物を操作する活動中・高学年はホワイトボードを用いて図や式を書く活動を取り入れる。 ・自己認知機能を向上させるトレーニング導入 ・複式学級における効果的な「わ	○構造化された板書を意識できるようになってきた。 △児童の発表や、それに対する応答が形式化されており、考えを深めることはできていない。 △思考の視える化を意識した板書が十分にできていない。

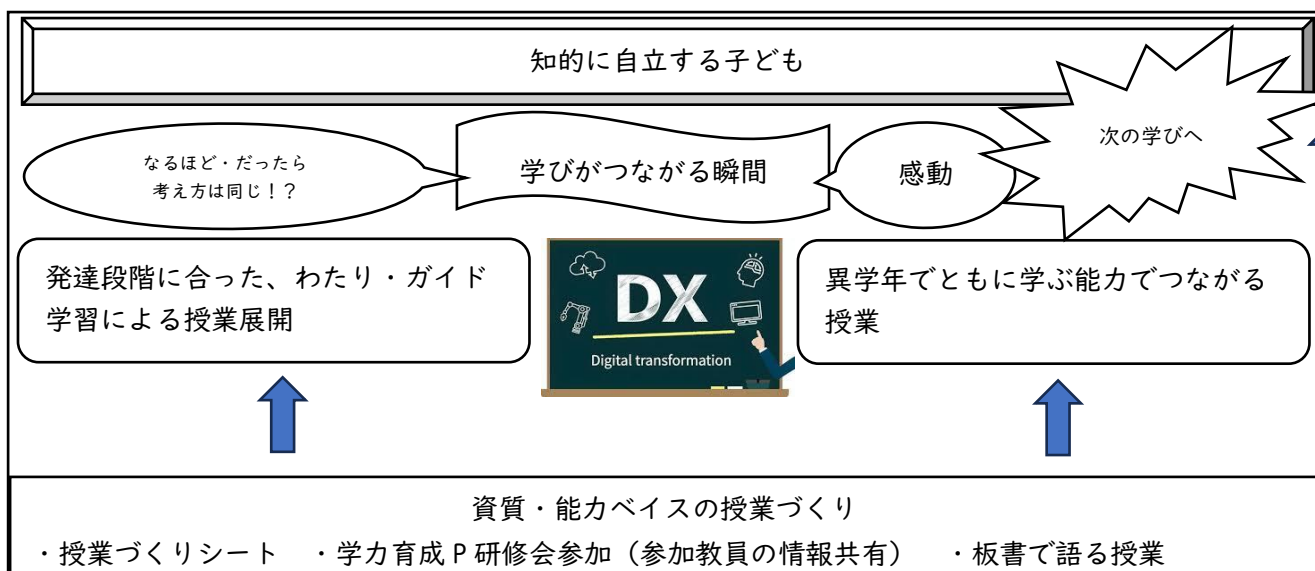
	たり」の授業の進め方を提案。	
R3 「伝え合い、自分の考えを深めることができる子どもの育成」 ～『思考の視える化』を意識した実践から～	○高山スタイルの授業づくり ・授業づくりのイメージマップ ・全職員による授業づくりシート 検討から能力ベースの単元デザイン ・ガイド学習形態・役割の整理 ○思考の視える化 ・思考の視える化ツール ・ミニホワイトボード ・構造的な板書計画	○高山小独自の授業づくりの形ができてつつある。 ○能力ベースの授業づくりの経験となる指導案を提案した。 ○わたりの授業形態を整理し、発達段階にあった方法を検討し実践できた。 ○思考の視える化を意識して、板書や、児童の意見整理などをすることができた。 △複式の良さ（異学年が共に学ぶ瞬間）を生かした授業実践を今後さらに行っていきたい。
R4 「伝え合い、自分の考えを深めることができる子どもの育成」 ～高山スタイルの授業づくりによる実践から～	○高山スタイル ・授業実践のイメージマップ共有 ・能力ベースの授業づくり ・異学年でともに学ぶ ・ガイド学習の形態 ・思考の視える化	○異学年でともに学ぶ授業について理解を深めた。 ○東京書籍の複式教育計画による算数授業の実施 △複式カリキュラムの編成ができていない。
R5 知的に自立する子どもの育成 ～高山スタイルの授業づくりから複式カリキュラム編成へ～	○高山スタイル ・授業づくりシートから始める能力ベースの授業づくり ・発達段階や学級の実態に合ったわたり・ガイド授業 ・異学年がともに学ぶ、能力でつながる授業 ・複式カリキュラムの編成	○なぜ異学年でともに学ぶ授業をするのかというところから考え、理解を深めた。 ○複式カリキュラムの土台を作成した。 △How?の部分だけでなく、Why?を問いつづけることが必要。

4 めざす児童像

○問いつづけ、よりよいものを求めて工夫や努力をしつづける子

5 研究構想

☆研究のイメージマップ



☆授業づくり

【高山スタイルの提案】

- ・授業づくりシートから始める能力ベースの授業づくり
- ・学びと学びのつながりを意識した授業づくり
- ・発達段階や学級の実態に合ったわたり・ガイド授業（下学年は下地をつくる）
- ・異学年がともに学ぶ、能力でつながる授業

6 研究の主な取り組み

(1) 授業研究

☆全員が算数授業公開（こだまは実態に沿って算数以外も可）

- ・訪問指導は密案（A3表裏1枚）、校内研究は略案（A3 1枚）

☆教材研究【高山スタイルの授業をみんなでつくる】

- ・授業づくりシート→指導案検討→授業（授業者の思いは尊重する）
- ・訪問指導については上記の順で授業づくりを行う。その他の授業は指導案審議のみ（授業づくりシートは作成する。）
- ・高山スタイルの視点に沿った工夫を取り入れる。ただしすべての視点を一度の授業で取り入れるのではなく、重点を決めて取り組む。

☆研究協議において1つの授業だけでなく、普段の授業に生かすことができるように概念化の視点を取り入れる。また、チームズを活用して、グループ協議を行うことで、対話に重点を置く。

(2) 能力ベースの授業づくり研修会への積極的な参加

☆1人1回以上はセット研修に参加する。

(3) 教育DXへ向けたICT活用

☆メディア教育主任が中心となってICT活用研修を15分を1回として月2回程度行う。

(4) 研究実践集録

☆CDデータにし、冊子にしない。ただ、最低数は冊子作成。

☆授業づくりシート、指導案、研究のまとめを作成する。

(5) 研究主題の評価・検証

☆授業1か月以内に実践のまとめを発行。（研究協議のデジタル資料を活用）

☆主題や目指す児童像にかかわる児童の姿が見られたときに、c4th いいところみつけに記入し蓄積する。

7 研究計画

時期	日付	学級・授業者・研修・発表		
1	6月	校内研究	5・6年学級	渡邊
	7月	中堅研	こだま	安田
2	9月	校内研究	3・4年学級	福間
	10月	校内研究	2年学級	梶谷
	11月	中堅研	こだま	安田
3	1月	校内研究	1年学級	峠
	1月	中堅研	こだま	安田
	2月	研究集録編集		
	3月上旬	研究集録完成・関係者へデータで配布		